

平成28年度 学校(自己)評価書

東海大学付属静岡翔洋高等学校・中等部

5～1は教員評価(5よい 4おおむねよい 3どちらともいえない 2やや不十分 1不十分)

分野	重点目標	成果と課題	評価	改善策
学校運営	年間教育目標の実践と点検・現状における課題の解決および改善に努める	<ul style="list-style-type: none"> 一人ひとりの教員が校長の下で、学園・学校の教育方針を理解し、熱心に教育に取り組んだ。 教職員は生徒募集目標達成の為に保護者・地域との連携や情報発信に努めた。 「変わる静岡翔洋」のスローガンの下、積極的に学校改革に努め、周囲から高評価を得た。 非常勤講師の割合が高く、教員間の意思の疎通・連携が難しかった。 若手教員のOJTが確立されず、教師文化やノウハウが継承されにくい。 	4.0	<ul style="list-style-type: none"> 学園・学校の基本的な教育方針を十分に理解し、具体的な目標を持って日々の授業や生徒指導に取り組む。 本校の生徒の頑張りや教育の特色をHPやFBに取り上げ、広報誌の配布の二本立てで実施し、情報発信に努める。 業務の合理化を行い、無駄を省き、生徒と接する時間を増やす。 非常勤講師との連携を教科・学年ベースで密にする。(ラインネット利用) 学年や教科での連携を授業互見などにより強化する。行事の振り返り等をきちんとし次年度につなげる。
学習指導	基礎学力の定着と授業の充実	<ul style="list-style-type: none"> 朝の小テストを実施。朝の遅刻が減少した。 学園基礎学力定着度試験の模擬試験を実施。4月の本番に向け中期的な学力育成に努めている。 チャイムと同時に授業を始めることを徹底した。 3回の授業評価を通じて授業の見直しを行い、改善を図った。 「高校現代文明論」での公開授業において、他の付属高校との意見交換を行った。 生徒が授業に参加する姿勢は、年度当初より向上し、落ち着いた雰囲気の中で積極的に学習に取り組むことができた。 大学進学のための基礎学力養成に工夫を凝らすと同時に、定期試験毎の50傑の掲示や表彰により、生徒の学習意欲の向上を図ることが出来た。 	3.2	<ul style="list-style-type: none"> 生徒の躓き箇所の確認を行い、中部・高校の連携の中で、IT環境なども利用して、学び直しの機会を定期的に与える。 自学自習のできる生徒を育てる工夫を、自学の試行、日々の授業、「スタディサプリ」の奨励、家庭との協力で実現する。 教員は研究授業や、相互授業参観などを通じて、授業力を上げる努力をする。 大学進学を想定した基礎学力の定着に、教科担当、クラス担任、学年で対応する。
クラス指導	遅刻・欠席のないクラスづくり いじめのない、お互いが高めあえるクラスづくり	<ul style="list-style-type: none"> 担任は生徒間の好ましい人間関係の構築に努め、いじめのないクラスづくりができた。 担任は個々の生徒にクラス・学校の一員としての自覚を促し、その役割を十分に果たさせることができた。 各学年が遅刻や欠席の少ないクラスづくりに努め、遅刻や欠席は特定な生徒だけになりつつある。 昨年同様、学年が低い程、生徒は学校が楽しいと評価している。 満足度など、生徒、教員共々、改革の手応えを感じているらしく、昨年度よりも高い評価を得られた。 	3.7	<ul style="list-style-type: none"> 地域の人々に暖かく見守られ、歓迎させる中・高生であるように、意識付けと指導を日常的に行う。 担任と教科担当は生徒の学習環境をきちんと管理すると同時に頭髪、服装の指導にも常に心がける。 公共の場でも常に生徒が本校の一員であることを自覚した行動ができるように指導を行う。

生活指導	社会ルールとマナー指導の徹底	<ul style="list-style-type: none"> ・本年度も生徒部として、「挨拶、礼儀、身だしなみ、美しい環境づくり」を目指し活動した結果、生徒に浸透してきていると感じる。 ・登下校のマナーについて、近隣からの苦情も減少した。しかし、自転車事故については、なくなるという現状であった。 ・教職員は校内の設備、整備の指導を意識して行った。いつでも、どこでも常に美しい環境を今後とも継続していくことが必要である。 ・生徒の頭髪、服装に関しては、生徒の自覚を促すと同時に全教員で同じ視線で徹底していく必要がある。 	3.9	<ul style="list-style-type: none"> ・地域の人々に「挨拶、礼儀、身だしなみ、美しい環境づくり」を目標に教育活動を実行していることを認識していただけるように日常的に生徒指導をしていく。 ・担任と教科担当は生徒の学習環境をきちんと管理すると同時に頭髪、服装の指導にも常に心がける。 ・登下校のマナーについて、引き続き指導を強化しながら、自転車事故等起こさないように自覚した行動ができるように指導を行う。
進路指導	目標設定と進路決定の早期化	<ul style="list-style-type: none"> ・入学直後から上級学校への進学指導(翔洋キャリア教育)を進めてきた成果が、ようやく実を結ぶようになってきた。 ・一部の生徒を除いて、多くの生徒が早期での進路決定に対応し、課題レポートなどへの取り組みに積極性を見せている。 ・進路の方向が定まっている生徒への情報提供は適確に行われている。 	3.7	<ul style="list-style-type: none"> ・付属生の進路決定までの流れを繰り返し保護者と生徒に説明し、3年になって困らない指導を計画的に行う必要がある。 ・生徒にとって日々の学習が卒業後の上級学校で活かされるものであることを理解させ、その場的な学習からしっかりとした基礎学力の定着を目指して取り組ませる。 ・保護者への情報の提供はもっと頻繁に機会をさがして行う。
特別活動	生徒会活動と部活動の活性化	<ul style="list-style-type: none"> ・部活動への取り組みに対する評価は、生徒、保護者、教職員ともに共通して高い。 ・委員会活動や係の仕事への取り組みを通じた指導に若干の不足があった。 	3.9	<ul style="list-style-type: none"> ・勉強と部活動の両立、部活より勉強、と言いつつも学習への取り組みの低さは大きな課題である
研究・研修	公開授業の定期化及び教員研修を充実させる	<ul style="list-style-type: none"> ・保護者向け公開授業を2回実施し、多数の参観者を頂けた。 ・教科別研究授業を実施、教員研修を行い授業力アップに努めた。 ・年三回の学校評価アンケート実施、教員にすぐに報告し、改善を促した。 ・学校関係者評価委員の授業見学もあり、手厳しくも暖かい励ましの言葉をいただいた。 ・高校2年アクセル・ベーシック初めての研修旅行を滞りなく実施させることができた。 ・理科と英語の授業では、小学校と中等部の教員の乗り入れ授業を実施した。 	<ul style="list-style-type: none"> ・昨年度より授業評価アンケートと公開授業の結果でベストティーチャー賞を決める。 ・学校報を月1回発刊することで、生徒・保護者へ校内の様子を伝える。 ・現代文明論推進委員会にて内容の充実をはかる。 ・教員研修及び教科別研究授業を実施することで、今後の社会におけるニーズに答えられるように、更なる授業のスキルアップを目指す。 	
その他	ドリームサイエンス盛大に実施 生活習慣改善プロジェクト実施			